

一橋大学大学院経営管理研究科(一橋ビジネススクール)
金融戦略・経営財務プログラム



選ばれ続けるMBAの真実

なぜ時代が「金融戦略・経営財務に強いリーダー」を求めているのか

開設以来612人の修了生を輩出 なぜFSが選ばれ続けてきたのか？

一橋大学大学院 経営管理研究科(一橋ビジネススクール)金融戦略・経営財務プログラム(FS)は、ファイナンスに軸足を置いたMBAプログラムです。日本の金融の中心である東京・大手町や丸の内にはほど近い千代田キャンパスを拠点に、金融・ファイナンスの深い知識と広い視野を持ったビジネスリーダーの育成に取り組み、2000年のプログラム開設以来、2019年3月までに612人の修了生を輩出してきました。

今、時代は金融・ファイナンスに強いリーダーを求めています。グローバル化の進展、およびFinTech、ビッグデータ、人工知能、ブロックチェーンなどに代表される技術革新によって世の中が激しく変化中、金融市場でのビジネスにおいても、事業会社の経営においても、今までのやり方だけでは先行きを見通せなくなっています。起きている社会現象や経済現象に振り回されるのではなく、論理的に事象の本質を分析し、より間違いのない意思決定をするためには、思考のパラダイムとそれに根ざしたグランド・フレームワークが必要。これらは金融・ファイナンスを学ぶことで得られるものなのです。

ファイナンスの思考モデルによって 経営の意思決定をする時代

一般的に、ファイナンスの専門性は、金融業界の専門家、あるいは企業の財務担当者など、特定の業務にのみ必要なものと認識されていることが少なくありません。し



Fintechと金融市場
コーポレートファイナンス



かし、この考え方は正しくありません。

ファイナンスとは、今あるデータから、論理的に未来を予測するための学問です。ファイナンスの思考モデルを使えば、例えば、将来の市場サイズや将来に作る製品の価格、さらにそれらを踏まえて取るべき戦略などを、比較的正確に、確率付きで導き出すことができます。あるいは、企業がイノベーションによって潜在的なニーズを開拓しようというときに、市場がどのような順番で、どのようなスピードで形成されていくかも、論理的に根拠を持って予測することが可能になります。つまり、ファイナンスの知識は経営の意思決定と不可分なのです。

しかしながら、日本の企業では、経営と財務が分業化されており、それぞれの専門性しか有していないことが多い。そこで今、経営とファイナンスの両方に精通し、経営の意思決定に論理的な提案ができるCFO(最高財務責任者)の役割が極めて重要になっています。

スピード感のある意思決定には データサイエンスが不可欠に

ファイナンスの思考モデルによる将来予測を行うために必要となるのが、計量分析、いわゆるデータサイエンスの能力です。ビッグデータや人工知能が発達し、大量のデータを集め、必要な情報を引き出すことが可能になりましたが、これらのテクノロジーはあくまでツールに過ぎません。これらを使ったシステムチックな方法で、大量のデータを活用して、あるいは少ないデータから必要な情報を引き出して、経営の意思決定に結びつけるのがデータサイエンスです。

選ばれ続けるMBAの真実

従来は様々なマーケティングリサーチなどによって潜在的な市場から情報を集めて、それをもとに試行錯誤しながら意思決定を行っていました。しかし、企業間の競争が激しくなり、スピードが求められる中で、データサイエンスの重要度もまた急速に高まっています。

データサイエンスには、統計学など数理系の知識が求められますから、文系出身のビジネスパーソンが苦手とする分野。しかし、データをビジネスの意思決定に有効に活用しようとするなら、今や、避けて通ることはできないものといえるでしょう。

FSではファイナンスを自分の軸に 経営に精通した人材を育成

CFOに限らず、経営とファイナンスの両方に精通したビジネスパーソンは、今、確実に不足しており、引く手あまたの存在です。FSが育てようとしているのも、まさに金融・ファイナンスを自分の軸として、経営全般に関しても幅広く知識を身につけた人材。数ある一般的なMBAプログラムとFSとの違いはそこにあります。

カリキュラムは、MBAとして必要な人的資源管理、経営戦略などの科目を取り揃えた上で、金融・ファイナンスに関してはより深く学べるよう科目を編成。文献の読み込み、授業でのディスカッション、2年間をかけた修士論文の執筆を通して、ファイナンスの思考のパラダイム、グランド・フレームワークを徹底的に修得。全体を俯瞰的に捉える視点を養います。同時に、データサイエンスについて実務で使いこなせるよう徹底的に訓練するのも、FSの大きな特色といえます。

さらに金融・ファイナンスの最新動向をキャッチアップするため、FinTechに関する科目を多数設置。また、金融業界や企業経営の第一線で活躍する実務家をゲストスピーカーとして頻りに招いています。

今こそ学び始めるとき 2年後には世界に選ばれるMBA人材に

FSには、今まで会社の中で得た経験・知識だけでは、今後の仕事やキャリアの先行きが不安と感じている方が、独学や会社の研修ではなかなか得られない考え方や知識を身につけたいという思いで集まっています。

違う業種への転職や起業を考えている人も少なくありません。例えば、IT系のエンジニアが金融・ファイナンスの専門性を身につけて、金融関係の新たなキャリアを考



えているケースなどです。起業する場合は、資金調達の方法などもFSでは学べますから。

金融業界で働く人も多数入学しています。高度な金融テクニックを用いて資産運用や金融商品開発に携わっていた人たちの業務は、今後、人工知能に置き換わっていくと見られており、この方々も金融と経営戦略を結びつける新たな専門性の獲得が必要となっているのです。

数理に弱い文系ビジネスパーソン、経営に疎い理系ビジネスパーソンはそろそろ脱却するべきときが来ています。今こそ学び始めてはいいかでしょう。2年後には、課題を論理的に分析し、解決する力が養われ、世界に選ばれるMBA人材となっているはずですよ。



一橋大学大学院
経営管理研究科 教授
プログラムディレクター

伊藤 彰敏

一橋大学の伝統「少人数ゼミ」は知的創造の場。 そこから始まる修了後のネットワークが大きな魅力

一橋大学大学院
経営管理研究科
教授

野間 幹晴



キーストン・パートナーズ
代表取締役

堤 智章氏

2007年9月修了

堤氏は三菱東京UFJ銀行でキャッシュフローファイナンスや証券化などに従事していた2005年にFSに入学。佐山・野間ゼミでメザンファイナンスに関する修士論文を執筆した。2009年に企業再生ファンドのキーストン・パートナーズを設立。野間教授は同社の社外投資委員を務めている。

金融関係から事業会社まで 多様な人材が集まるゼミ

堤 ゼミでは2年間をかけて修士論文に取り組みました。FSのゼミでは、実際のマーケットのデータに基づくモデル式を導き出して、事象に対する検証を行うことが求められる。それを数理的にしっかり表現できないとダメだと野間先生からは徹底的に指導されました。

野間 現役のビジネスパーソンが現実に起きている課題を解決するために取り組むのがFSの修論です。計量的なアプローチを使い、客観性・論理性にこだわるからこそ、誰もが実際に使えるものになりますからね。

堤 担当教授以外から指導していただけるのもFSのいいところですね。数理系の先生からはデータの集め方や処理の仕方についてテクニカルなアドバイスを受けました。修論を通して、先生方との関係も深まりますし、同じ方向を向いて苦勞を共にするのでゼミ仲間とのつながり

も強くなります。教え合い、刺激し合う良い関係を築きました。

野間 FSには金融関係から事業会社まで多様な業種の方が集まり、まさに日本の金融市場の縮図といえます。一定の分野に精通している方が多く、みなさん問題意識が極めて鮮明。ゼミは5~8人の少人数で、毎回濃密な議論が展開されます。こうした方々の現場の問題意識にアカデミクスの手法を当て嵌めると斬新な研究テーマも生まれやすい。他では得がたい知的創造の場といえるでしょう。

堤 私は、修了後の2007年に銀行を辞めて、キーストン・パートナーズを2009年に起業しました。企業再生ファンドは修論のテーマとも関連する事業。まさにFSで学んだ経験があればこそそのキャリアです。それは「人」に関しても言えることです。

FS修了生のネットワークを より強く、大きくしたい

野間 修了後も様々なかたちで教員やゼミ仲間、先輩・後輩の関係が続くのがFSの魅力です。私のゼミの修了生を堤さんの会社に採用してもらっていますし、私も社外投資委員として貴重な経験を積み重ねています。

堤 野間先生のゼミ生で私の後輩に当たる女

性が、「女性取締役がいる会社は株価が上がる」というテーマの論文を書いて、これはおもしろい。そこで、研究内容を実践してもらおうと、彼女に当社の投資先の社外取締役に就任していただいたこともありました。

野間 修了生が1つのプロジェクトに異なる立場から携わることもあります。あるM&Aの案件では、関係者4名のうち、3名がFSの修了生ということがあったそうです。

堤 修了生同士は考え方や言語が共通していますから、交渉もしやすいでしょうね。

野間 その通りです。堤さんには、2014年に寄附講義の設置にもご尽力いただきましたね。

堤 FSに恩返ししたいという思いがありましたし、優秀な人材の育成に協力するのは社会貢献でもありますから。

野間 2017年にOB会を立ち上げ、会長にも就任されました。

堤 糸井重里氏を招いて、家族同伴可の総会を開催して盛り上がりました(笑)。ハーバード大学では、修了生同士がネットワークを作り、金融の最先端の情報を共有して、金融業界に大きな影響を与えています。ゆくゆくはFS修了生のネットワークも、そのように強く、大きくしていきたいと考えています。

FS修了生のネットワークを広げる「ファイナンスクラブ」

ファイナンスクラブとは、FSの修了生とゲストが集うイベント。開催は年1~2回。毎回、金融・ファイナンス分野をはじめとした各界で活躍するFS修了生の実務家や研究者

が講演者として招かれ、最新のトピックについて講演するとともに、参加者が幅広く意見交換をして、新たなネットワークを広げる場となっている。

最近の登壇者と講演テーマ例

- 株式会社 ZOZO 執行役員 経営管理本部長 廣瀬文慎氏(2017年度修了生)
「機関投資家との対話と企業価値」
- (株)はてな取締役CFO(当時) 小林直樹氏(2010年度修了生)
「IPO体験談とベンチャーCFOの役割」
トヨタファイナンスサービス(株)
- 販売金融グループ バイスプレジデント 樋口哲央氏(2005年度修了生)
「インドネシアにおけるイスラム金融について」

理論と実践のバランスが取れた質の高い最先端の授業

コーポレートファイナンス

CFOなど、企業戦略と財務戦略を融合させて戦略を組み立てることができる人材の育成を目指すFS。そのための中核をなす科目が「コーポレートファイナンスの基礎」「CFOと企業価値」「国際財務管理」「企業戦略論」など。これらの科目では、財務戦略が必要となる経営の局面をケーススタディとして取り上げ、経営、財務、金融などそれぞれバックグラウンドが異なる社会人学生が活発に議論をすることで、多角的な視



点を獲得し、理解を深めていく。財務分析ツールなどの実践的な知見・スキルも数多く習得できる。

企業価値創造

投資やM&Aの領域で、近年注目度が高まっている企業価値(EV: Enterprise Value)。このEVをいかに生み出していくか、向上させていくかをテーマとした科目が、「企業価値向上論」「グローバル・リーダーシップ」「アントレプレナー・ファイナンス」など。自ら投資家として豊富な経験を持つ教員、企業経営者をはじめとする多彩なゲストスピーカーらが、企業が掲げるビジョン、リーダーのあり方などを講義。自社のEV向上に貢献するリーダーシップを養うと同時に、投資家として企業を評価する視点を磨くこともできる。



データサイエンス

計量分析を教育の軸とするFSにおいて、テクニカルな面での一つの柱となるのが、データサイエンス系の諸科目。該当する科目は、「データサイエンス概論」「金融データ分析」「コンピューショナル・ファイナンス」など。日進月歩で進化を続けるデータサイエンスの基礎から応用までを、一線級の研究者がビジネスの文脈に結びつけて解説する。これらの科目を通して、最新の理論を踏まえ、自分でプログラムを書くことが



できるレベルの知見・技術を体得し、個々の修士論文やビジネスの現場におけるデータ解析に活用していく。

FinTech

金融の領域における最もホットなテーマであるFinTechに関しては、科目の新設を積極的に進めており、2018年度は「FinTechと金融市場」「FinTechとイノベーション」「FinTechと資産管理」の3科目を設置(いずれも企業からの寄附講義)。FinTechの技術的な原理から応用としてのビジネスまでを学ぶことができる。また、FinTechに取り組む企業や金融庁、弁護士など各方面からゲストスピーカーを招き、「今、何が起きているのか」「何が課題なのか」を生で解説。さらに海外の最新動向なども随時伝えていく。



ゲストスピーカー実績 (2016年4月~2018年1月実施分より一部抜粋) ※社名・肩書は講演当時のもの

- (株)サニーサイドアップ代表取締役社長 次原悦子氏
「PR活動を支援し、顧客企業の企業価値を向上」
- (株)KPMG FAS代表取締役パートナー 知野雅彦氏
「M&Aと事業再生の実践」
- (株)横浜DeNAベイスターズ前代表取締役社長 池田純氏
「現場を感じ取る経営センス」
- (株)丸井グループ代表取締役社長 青井浩氏
「丸井グループのサステナブルな進化に向けた革新と企業価値の向上」
- 日本交通(株)代表取締役会長 川鍋一朗氏
「企業再生、そしてITによるビジネスの変革への対応」
- スカイマーク(株)元代表取締役社長 西久保慎一氏
「飽くなき挑戦」
- サッカー日本代表元監督 岡田武史氏
「チームマネージメント~今治からの挑戦~」
- (株)東京スター銀行取締役兼代表執行役頭取CEO 佐藤誠治氏
「Financial Freedom」
- 第一生命ホールディングス(株)、第一生命保険(株)代表取締役会長 渡邊光一郎氏
「真の価値創造を目指して」
- (株)グルーブノーツ代表取締役会長 佐々木久美子氏
「リデザインする」
- (株)RIZAP代表取締役社長 瀬戸健氏
「『人は変わる』を証明するために」
- (株)ブロードバンドタワー 代表取締役 会長兼社長 CEO 藤原洋氏
「フィンテックのコア技術」
- 金融庁総務企画局政策課 課長補佐 久米均氏
「FinTechに対する金融庁の取り組み」
- みずほ証券(株)副社長 幸田博人氏
「フィンテックと金融機関の経営」
- freee(株)代表取締役 佐々木大輔氏
「freeeへの新規事業提案」
- (株)日本総合研究所副理事長 翁百合氏
「ブロックチェーンとフィンテック」

最先端のファイナンス理論に精通した実務家教員たち



経営管理研究科 教授
コーポレートファイナンス
経営財務

鈴木 健嗣



鈴木 健嗣教授の著書「日本のエクイティ・ファイナンス」(中央経済社)が2018年度・第61回「日経・経済図書文化賞」を受賞しました。



学際的なアプローチを取ることで新しい発見が生まれる

私の研究対象はファイナンスや経営戦略です。ファイナンスの領域では、『日本のエクイティ・ファイナンス』という書籍を出版しました。計量分析による日本企業の増資の実証研究です。増資の方法やタイミングについて大量のデータを取って調べたのですが、その結果、日本企業はエクイティ・ファイナンス戦略に弱いことが定量的に浮き彫りになりました。経営戦略の領域では、経営者交代をテーマとした論文が、米『Strategic Management Journal』に掲載されました。経営者交代における“コネ”に注目した研究です。これも計量分析を使って調べてみると、日本企業の場合、やはり出身大学や出身地域、一緒に働いた経験などコネの影響が大きい。また、コネで交代した経営者は先代が築いた文化や制度をなかなか変えられないという傾向も実証されました。

そのほかでは、キャッシュホールディングス、株主優待、コーポレートカルチャーなど研究テーマは幅広いですね。いずれも学術的興味から始まるのではなく、原点は個人的な好奇心です。経営の現場においては、みんながなんとなく「こうだ」と思い込んでいることがたくさんありますが、その多くを実は誰もきちんと調べていない。そこを明らかにしたいという思いがあります。

新しい着想を得るために大切なのが、学際的なアプローチです。学生みなさんにもこの点は意識するよう伝えていきます。コーポレートファイナンスの論文を書くにせよ、経営学や会計学などのペーパーも読むことで、今まで誰も研究していないテーマがいろいろと浮かび上がってくるはず。是非ともオリジナリティのある研究テーマを追究してください。



経営管理研究科 准教授
データサイエンス
統計的データ解析
データベース論

横内 大介

先入観なくデータに向き合い データに事実を語らせる

私が専門としているデータサイエンスは、“データに事実を語らせる”学問です。データは現象を映す鏡。ある現象が“なぜ”起きているのかを、データを分析し、モデルを作ることによって明らかにします。

このデータサイエンスは、最近データエンジニアリングと混同されることが多いですね。AIに代表されるデータエンジニアリングは、データから正しい答えを導き出し、実用に供する技術。この技術は“なぜ”を探ることができません。たとえば、ディープラーニングで作られたAIは正答率は高いですが、なぜ間違えたかという理由は調べられません。現実には起こる現象は無数の要素が関係しており、データもきれいではありません。解析していても、必ずこのようにうまくいかない状況に突き当たる。そこで“なぜ”を解き明かすデータサイエンスが必要になるのです。

同様に、統計学もデータサイエンスと混同されやすいですが AIも統計学も実は道具に過ぎません。データサイエンスは、データの背景情報を吟味し、目的に合った分析道具を使い、データの裏に潜む真実を明らかにします。私は金融データを扱うことが多いですが、このデータサイエンスの考え方を言えば、どんな現象でも扱うことができます。実際、私が企業から依頼を受けて行っている研究は、水槽の中の養殖魚の大きさをカメラで撮影した画像データから推定する、超音波で測ったデータからバルブの故障に関する情報を得る、中古車の取引価格をオークションデータから予測する、など多岐にわたっています。

その際に大切なのは、仮説や先行研究に引っ張られず、純粋な目でデータを見ること。先入観なく向き合うことによって初めてデータは語り始めるのです。



専任教員



研究分野：コーポレート・ファイナンス、実証分析

教授 **伊藤 彰敏** (いとう あきとし)
プロフィール
Ph.D.(Univ. of Western Ontario)。東京経済大学、国際大学、レジャイナ大学、筑波大学を経て現職。

メッセージ

研究も実務も、仮説を立てて検証し、また仮説を立てて……という作業の繰り返しだと思います。この作業を徹底的に突き詰めることで、新しい知識の地平が見えてくると思います。ファイナンスという窓口から知のフロンティアへ、みなさんとチャレンジしたいと思います。



研究分野：M&A、企業価値評価、経営、IPO、倒産

教授 **佐山 展生** (さやま のぶお)
プロフィール
1976年京大工卒、94年ニューヨーク大学院卒(MBA)、99年東工大大学院卒(学術博士)。76年帝人、87年三井銀行、98年ユニゾン、2004年GCA、07年インテグラル共同設立。15年スカイマーク株式会社代表取締役会長。

メッセージ

初心者からプロを対象に、M&Aの進め方、企業評価の手法を考察、模擬価格交渉等も通じ、M&Aとは何か、どうあるべきかを探索する。また、ゲスト経営者もお招きし、理想の会社、理想の経営者像につき考察したい。



研究分野：ファイナンス(証券投資、資産価格モデル)

教授 **本多 俊毅** (ほんだ としき)
プロフィール

1990年一橋大学卒、1992年修士課程修了。1997年スタンフォード大学Ph.D. 横浜国立大学経済学部を経て現職。日本ファイナンス学会会長。

メッセージ

真に顧客のためとなる金融商品を開発し、企業や国民の成長・発展に貢献することを目指す。教育や研究を通じ、皆さんと一緒にこの目標を達成し、経済や資本市場の発展に貢献してゆければ良いと思っています。



研究分野：財務会計、企業価値評価

教授 **野間 幹晴** (のま みきはる)
プロフィール

博士(商学・一橋大学)。04年より現職。10年~11年までコロンビア大学ビジネススクール・フルブライト研究員。

メッセージ

私の講義では、会計や企業価値評価についてケース・スタディを中心に進めます。企業サイドと投資家サイドの受講生が議論するので、企業と投資家の両方の視点を学習することができます。本プログラムでみなさまにお会いできることを楽しみにしています。



研究分野：データサイエンス、統計的データ解析、データベース論

准教授 **横内 大介** (よこうち だいすけ)
プロフィール

博士(工学・慶應義塾大学)。慶應義塾大学理工学部数理科学科を経て現職。

メッセージ

私の主な研究テーマであるデータサイエンスは「データに語らせる」ための科学です。データサイエンスを駆使し、金融・財務データから新たな事実や知見を探索、発見したり、AIを開発してみませんか。



研究分野：金融市場論、金融商品論、エナジーファイナンス

教授 **大橋 和彦** (おおはし かずひこ)
プロフィール
一橋大学経済学部卒業。MITスローン経営大学院博士課程修了、Ph.D.(経営学)取得。日本銀行金融研究所顧問。元日本ファイナンス学会会長。

メッセージ

ここで得られるのは、ファイナンスを理解するための「軸」です。体系的な科目の履修と修論作成で鍛えられますが、それらを通じて皆さんが、将来のどのような状況にも対応できる自分自身の軸を手に入れられることを期待しています。



研究分野：計量ファイナンス

教授 **中村 信弘** (なかむら のぶひろ)
プロフィール

工学博士(京都大学)。MTECを経て、2000年一橋大学大学院国際企業戦略研究科着任。

メッセージ

着任時より、計量系ファイナンスの講義を担当し、プライシング、リスク管理、投資戦略等のテーマを研究。現実の市場で実践しうる理論、モデル構築を目指しています。



研究分野：金融リスク計量モデル、数理ファイナンス

教授 **中川 秀敏** (なかがわ ひでとし)
プロフィール

博士(数理科学・東京大学)。エムティービーインベストメントテクノロジー研究所(MTEC)、東京工業大学を経て現職。

メッセージ

急速に高度化・複雑化する金融リスクのモデルや計量手法をキャッチアップできるように、本プログラムではリスク計量の基本はもちろん、最先端の話題も積極的に取り上げていきます。知的好奇心旺盛な社会人の皆さん、共に学びましょう!



研究分野：コーポレートファイナンス、経営財務

教授 **鈴木 健嗣** (すずき かつし)
プロフィール

2005年一橋大学大学院商学研究科修了後、東京理科大学、神戸大学、ワシントン大学を経て2015年より現職、博士(商学)。日本経営財務学会評議員。

メッセージ

企業価値をいかにして向上させるのか。この問題を、コーポレートファイナンスのみならず経営学、会計学、経済学などさまざまな視点を取り入れ、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



研究分野：企業ダイナミクス、金融仲介、取引ネットワーク、債券市場

准教授 **宮川 大介** (みやかわ だいすけ)
プロフィール

Ph.D.(経済学・UCLA)。日本開発銀行(現・日本政策投資銀行)、ハーバード大学、日本大学を経て現職。

メッセージ

企業行動・企業パフォーマンスと金融の関係を中心に、大規模データを用いた実証研究を行っています。本プログラムでは、経済学のロジックと計量経済学のツールを習得し、実務にとって有益なストーリーをデータから導くためのトレーニング機会を提供します。

2016年度修了生たちの声「2年間で私が得たもの」



三井住友アセットマネジメント
グローバル戦略運用グループ
クオンツアナリスト
ファンドマネージャー

大学卒業後、三井住友銀行に入行。市場部門の為替ディーラーとして勤務。2015年、FSに入学し、中村・横内ゼミで学ぶ。入学と同時に三井住友アセットマネジメントに就任。2017年にFSを修了後、数学(確率解析)の研究を深めるため、他大学の博士後期課程に進学。2017年、人工知能学会金融情報研究会(SIG-FIN)で優秀論文賞を受賞。



自分の哲学を持つことの重要性をFSの先生方から学んだ

東出 卓朗さん

FS入学前は三井住友銀行で為替ディーラーとして働いていました。当時考えていたのは、何しろ経験と勘の世界なので、そこに定量的な見方を持ち込みたいということ。投資の分野はAIの導入が進んでおり、AIを動かすモデルを作るためにも定量的な理論が必要です。しかし、独学では限界があり、学術ではどういふことを言っているのだろうかという関心から進学を決めました。

金融を本格的に学べる大学院は限られていましたし、中では教授陣の顔ぶれ、プログラムの内容ともにFSが群を抜いていたので、大学院選びで迷いはなかったです。

銀行では夜勤が多かったので、平日夜間に通えるよう、会社に相談して現在の会社に向向。ほぼ毎日通学し、夜中の2時、3時まで大学院の図書館で勉強していました。やるからには本気でやらないと意味がないですから。

FSで学んだことで一番大きかったのは、自分の哲学を持つことの重要性です。学術の世界は一定のレベルから先は正解がない。そこで問われるのは哲学です。指導教官の中村先生や横内先生をはじめ、FSの先生方はそれぞれ哲学がある。そこに大きく影響を受けました。私自身は、FSで学ぶ過程で本質的な理論の追究を志向するようになり、それが自分の哲学となっています。だから、今は他大学の博士後期課程で数学を研究しています。

自分の哲学を得たことはファンドマネージャーの仕事にも影響しました。相場の動きが一時的なゆらぎなのか、本流が変わりつつあるのか、本質を見極める視点から根拠と自信をもって判断できるようになりましたね。

キャリアの途中で大学院進学を検討している人たちに考えてほしいのは、何を哲学として成長したいのかということ。それが定量的なものならFSはお勧めです。



数多くのディスカッションを経て思考プロセスと伝える力が鍛えられた

櫻庭(青沼) 見和さん

東京証券取引所を運営する日本取引所グループで広報としてメディア対応に従事するなかで、当時注目度が高まっていた「企業価値」について体系的に学びたいと考え、FSに入学しました。当社でも「JPX日経インデックス400」という企業価値向上にフォーカスした指数を算出しており、上場企業3600社の経営努力にもっと寄り添う意味でも、上場会社としての自社の企業価値向上を考える上でも、学ぶ必要性を感じていました。

入学して驚いたのは同級生のレベルの高さ。公認会計士の有資格者や企業経営者など高い専門知識と実務経験を持った方が揃っており、刺激的でした。

印象に残っている科目の一つが、野間幹晴先生の「コーポレート・ファイナンス」です。国内外の企業をケーススタディとして取り上げ、先生と学生が活発にディスカッションする講義スタイルは発見の連続でした。同級生の発言から新たな視点、多様な伝え方に気づかされました。また、佐山展生先生が様々な会社の代表者をゲストスピーカーとして招く「企業価値向上論」では、経営者の視点、自社に留まらず日本経済を元気にしたいという熱い思い、そして伝える意欲・力に感銘を受けました。

FSでは授業やゼミのディスカッション、プレゼン、修論の報告会などアウトプットの機会がとにかく豊富。豊富に経験できるからこそ、自分の中にある情報や知識を整理した上で仮説を立てて考える仮説検証型の思考プロセスが鍛えられました。伝える力、度胸もつきましたね。いずれもビジネスの現場でも必要な力ですから、自分でも成長を実感する機会が多いです。修了後は、仕事の上でも新しいことにチャレンジする意欲が高まりました。これもFSで学んだからこそだと思います。



日本取引所グループ
広報・IR部(報道・IR)
調査役

2015年にFSに入学。日本取引所グループに勤務しながら1年次は週5日、2年次は週3日のペースで通学。修士論文は、伊藤彰敏教授指導の下、「新興市場の成長性の分析」をテーマとして書き上げた。修了後はFSで得た知識を活かして、女性を対象とした金融セミナーの講師も務めるなど、仕事の幅を広げている。



日立製作所
グローバル渉外本部
渉外企画部
主任

大学では情報工学を学び、日立製作所に入社。システムエンジニアとして社会インフラのシステム開発に携わる。2012年、大阪に転勤になり、翌年、神戸大学大学院経済学研究科に進学。その後、関東に戻ったのを機に、2015年修了と同時にFSへ入学。2年次の終わり頃、社内公募に手を挙げ、現在の部門に異動し、現在に至る。



FSで学んだことが評価され希望していた部署への異動を実現

磯部 好孝さん

開発部門でSEとして働いていたのですが、知識が技術系に偏っていて、「自分は世の中のことを知らない」という課題意識がありました。

管理職になれば、経営的な視点が必要になりますから、いつかは学ばなければならない。それなら、早いほうがいだろうと、最初は大阪転勤時に神戸大学大学院経済学研究科に進学したんです。経済を学んで世の中の全体を把握できるようになったら、次はより身近な企業を「お金の流れ」という面から知りたいと考え、迷わずFSに入学しました。FSは計量分析に強く、その点ではSEとしての自分の強みも活かれますから。理系出身者にとっては親和性の高いMBAだと思います。

FSでは、先生から繰り返し、「なぜ」と問われます。このハードシンキングが求められる環境で考え抜く力は本当に鍛えられました。さらに、物事や事象をアカデミックな視点で多面的に見る力も養われました。入学前とは明らかに思考が変わりましたね。結果、仕事においても、言葉だけでなく、深く分析した数字を示すなど、論理的・客観的に相手を説得できるようになりました。

修士論文では、ツイッターの大量のつぶやきが株価の変動にどう影響するかを、テキストマイニングという手法を使って分析しました。この修論は会社でも報告し、関心をもってもらっています。また、学んだことを活かしてコーポレート系の部門で働きたいと、社内公募に手を挙げ、在学中に今の部門に異動できたのですが、その際にもFSで学んだことが高く評価されました。

修了後も、セミナーや授業の聴講で頻りにFSを訪れています。興味がある研究論文を読む習慣もできましたし、学び続ける力がついたことも大きな収穫です。

【学生情報】

入学者の男女比

	2016年入学	2017年入学	2018年入学
男性(人)	36	35	40
	83.7%	87.5%	88.9%
女性(人)	7	5	5
	16.3%	12.5%	11.1%
計(人)	43	40	45

入学者の年齢分布(人)

	2016年入学	2017年入学	2018年入学
20代	10	8	11
30~34	16	15	22
35~39	13	9	5
40~44	4	5	4
45~49	0	1	2
50代	0	2	1
計	43	40	45
平均年齢(歳)	33.5	35.0	33.5

入学者の勤務業種(人)

	2016年入学	2017年入学	2018年入学
証券	4	3	4
銀行・リース	10	8	8
製造業	3	3	3
官公庁他	2	1	2
サービス業他	1	0	2
貿易商事	3	4	4
資産運用	4	5	8
監査法人他	1	2	1
保険	3	2	3
情報・通信	3	5	6
コンサルティング	5	2	1
運輸	1	0	1
ガス電気	1	0	1
医師	0	1	0
その他※	2	4	1
計	43	40	45

※証券取引所、格付けセンターなど

出身大学の学部内訳(文系理系)

	2016年入学	2017年入学	2018年入学
文系計(人)	31	23	31
	72.1%	57.5%	68.9%
うち、経済・商学部	18	12	14
うち、その他文系	13	11	17
理系(人)	12	17	14
	27.9%	42.5%	31.1%
計(人)	43	40	45

2018年度在校生数(2019年 1月1日現在)(人)

	修士1年生	修士2年生	修士3年生以上
男性	40	35	7
女性	5	5	1
計	45	40	8



2007年度修了

「建築士×MBAの専門性を活かして星のや東京を開発」

星野リゾート
企画開発部 プロジェクトプロデューサー **馬場 義徳さん**

2016年7月、高層ビルが建ち並ぶ東京・大手町に登場した日本旅館「星のや東京」。プロジェクトマネージャーとして、この企画を立ち上げ、実現したのが、馬場義徳さんだ。

かつては一級建築士として西武グループのリゾート開発に携わった。FS入学は2006年。修了後、建築とファイナンスの2つの専門性を活かした仕事をしたいと、FSの佐山展生教授に相談し、ヘッドハンター経由で紹介されたのが星野リゾート。馬場さんの「やりたいこと」を実行できる理想の職場だった。

「星のや東京のプロジェクトでは、ビジネスプランニング、契約書の作成、全体のマネジメントから空間設計まで、ゼロからすべてを担当しました。何を作るのか、どう収益を上げるのかというところから設計まで一気通貫で携わること

には大きなやりがいを感じます」

設計とマネジメントの両方を担当することで仕事はやりやすくなった。より良いものを作るため、予定外の仕様の変更にも対応できるように予算の仕組みを作っておくなど、大きな枠組みで柔軟な動きが可能になるからだ。

「FSで鍛えられたのは“考え続ける力”。以前の自分なら自分の専門外のことは、専門家に任せて終わりでした。しかし、諦めずに考え続けて原理・原則をつかめば専門外のことでも理解できるという自信がついたんです」

この自信は活躍の場を広げる。現在はFSの非常勤講師として、教える仕事にも携わる。



FSでの学びが切り拓いたビジネスキャリア

2012年度修了

「大学院で培った“不屈の精神”がVCのシビアな勝負を支える」

グロービス・キャピタル・パートナーズ
プリンシパル **渡邊 佑規さん**

三井住友銀行から国内トップクラスのVCであるグロービス・キャピタル・パートナーズ(GCP)に転職したのが2015年。FC修了生である渡邊佑規さんは、より会社の看板に頼らないシビアな環境でベンチャーキャピタリストとして活躍を続けている。

投資先のスタートアップがIPOに至るまでは平均して5~7年。この長期にわたるプロジェクトが成功した上場日には、GCP社内でもシャンパンで祝杯を上げる(左下写真)。

「戦略策定支援、ファイナンス支援、採用支援など、VCの仕事は多岐に渡ります。私はファイナンスを強みとしているので、CFOが不在

のスタートアップの場合、私が臨時CFOとして、事業計画策定や資金調達のアレンジすることもあります」

ただし、VCは「3割勝てば優秀」という世界。それだけに「失敗といかに向き合うか」が問われる。高度な専門知識やスキルに加え、タフな精神力も要求される仕事だ。

「FSの2年間で得たものは、学び方、思考回路、自信、そして“やればできる”という不屈の精神。このすべてがVCの仕事に活かしています」

また、東京証券取引所などFS修了生の人脈が直接ビジネスで役立つことも多いという。「私が入学したのが29歳。当時は少し早いかとも思ったのですが、今振り返るとベストなタイミングでした。進学検討中の人は、機が熟すのを待ち過ぎずに行動してほしいですね」



社会人学生の「学びやすさ」「多様性」にも配慮しています

授業は平日夜間に集中。 週末は家族と過ごしてください

社会人が働きながら通学できるよう、授業は原則として月~金曜日の夜間に開講しています(1時限18:20~20:05、2時限20:15~22:00の2コマ)。一部の授業や集中講義は土曜日に開講されますが、基本的には平日夜間を中心とした通学で修了可能です。

土曜日・日曜日は予習・復習や修士論文の執筆などに充てることももちろん多いですが、時間を上手にマネジメントすれば、家族と過ごす時間も十分取れます。

学生40人に対して専任教員10人の 教えるプロが面倒を見ます

1学年の学生数が40人、専任教員が10人という少人数精鋭の体制を取っており、教員と学生の距離が近いことが特徴です。

中でも教員と学生、あるいは学生同士のつながりを強めてくれるのがゼミです。ゼミの人数は5~8人。教員が一人ひとりの学生とじっくり向き合える少人数ゼミは、一橋大学の伝統でもあります。ゼミの担当教員だけでなく、すべての教員が学生をサポートします。

入学試験は「書類」と「面接」のみ

入学試験は、第1次試験が書類審査、その合格者を対象とした第2次試験が口述試験となっています。2次の口述試験は、出願時に提出した修士論文計画書に基づいて行われます。英語や専門科目などの筆記試験は課されないため、忙しい社会人でも、長期間の入試対策に時間を割かれることなくチャレンジすることが可能です。

なお、入試は10月に書類受付をする秋期募集、年明け1月に書類受付をする冬期募集の年2回です。

数学や統計学に不安があっても 「入門科目」で短期間に知識を補えます

FSのカリキュラムは、MBA、ファイナンスの広範な分野をカバーし、目的に応じて選択できる科目が、基礎から応用まで提供されています。また、数学や統計学のバックグラウンドに不安のある学生は、「入門科目」を履修することで比較的短期間に知識を補うことができます。

用意されている入門科目は「金融数理入門」「線形モデル入門」「金融リスク計量入門」「時系列分析入門」など。基礎から着実に計量分析の力を養うことができます。

修士論文を課している 理由があります

FSでは修士論文を必須としています。論文のテーマを念頭に置きながら授業に臨むことで、それぞれの授業の内容が自身の中で有機的に結び付き、実のある知識となります。同時に、2年間の知識を総動員して論文の作成に当たることによって、学んだ知識が実践で使えるものとなるのです。

なお、例年3月に、40点ほどの修論の中から特に優秀な6点を選ばれ、在校生、修了生、学外の方々に向けてプレゼンを行う「優秀修士論文発表会」を開催しています。

在学期間中、半年単位で2年間まで 休学することができます

企業等に勤務しながら通学する社会人学生の場合、長期の出張、異動、業務の都合等で一定の期間通学ができなくなる可能性があります。このようなケースに配慮し、FSでは休学制度を設けています。在学期間中、半年単位で最長2年間まで休学することができ、休学期間は学費がかかりません(修了まで4年を要した場合も、2年で修了した場合と学費は変わりません)。

「いつ長期出張があるかわからない」といった懸念がある方も安心して受験してください。

なお、休学2年を含め在籍は最長6年まで可能です。



一橋大学大学院
経営管理研究科 教授
プログラムディレクター 伊藤彰敏

カリキュラム

本プログラムでは、ファイナンスの広範な分野をカバーし、目的に応じて選択できる科目が、基礎から応用まで提供されています。また、数学や統計学のバックグラウンドに不安のある学生は、「入門科目」を履修することで比較的短期間に知識を補うことができます。「基礎科目」「専門科目」ともに理論を深める科目と実践を学べる科目がバランスよく編成されていることも大きな特徴と言えます。知と実務の最先端に触れながら、未来のビジネスリーダーに求められる「自ら思考を体系化する力」を養います。

【修了要件】

2年以上在籍かつ34単位以上取得
(講義科目26単位以上、演習8単位以上)

修士論文審査

修了・MBA取得

※講義科目26単位以上のうち18単位以上は本プログラムの講義科目の単位を修得する必要があります(この条件を満たせば、他プログラム・他専攻の講義科目の単位を修了要件としての単位数に算入することも可能)。
※本プログラムの講義科目で履修すべき26単位以上のうち、「基礎科目」7科目の中から4科目(8単位)以上を修得する必要があります。

【科目履修について】

入門科目 (希望者のみ)	数学や統計学のバックグラウンドに不安のある学生には、比較的短期間に知識を補うことができるように「入門科目」が用意されています。「金融数理入門」「線形モデル入門」「金融リスク計量入門」「時系列分析入門」「金融データリテラシーⅠ」「金融データリテラシーⅡ」の6科目があります。
基礎科目 必須8単位(4科目)以上	現代ファイナンスの多様な領域に共通した「知識ベース」や「フレームワーク」を修得します。統計学、アカウントティング、エコノミクス、コーポレートファイナンス、コンピューテーション、分析ツールなど各人のニーズに合わせて基礎力を固める科目があり、専門領域をより深く学習するための基礎を作ります。こうした基礎科目の履修を通じて、ファイナンスの思考法そのものを身につけていきます。修士課程1年次での履修を推奨しています。
専門科目 必須18単位以上	各人の実務上の課題や興味、目的に合わせて選択でき、その分野でさらに専門性を高めていくことができます。どの科目も、実務上のインプリケーションや成果を重視しています。また授業内で第一線の経営者・実務家をゲストスピーカーとして招聘するクラスも多く行われています。法務に関心のある学生は千代田キャンパス・ビジネスロー専攻の授業も履修できます。
演習 (修士論文指導とゼミ) 必須8単位	在学期間(最短2年)を通じて、全ての学生が少人数制のゼミに参加します。ゼミでは学生が実務上の課題を選択し、ゼミ担当教員による懇切丁寧な指導のもと、修士論文作成に向けて、学習した知識を総動員して解決策を模索していきます。修士論文は、それ自体が大きな成果ですが、追

【学期制度】

本プログラムは、年度を4つに分割する4学期制をとっています。

- 春学期(4月-5月)
- 夏学期(6月-7月)
- 秋学期(10月-11月)
- 冬学期(12月-1月)

【授業時間帯】

授業は平日、月曜日～金曜日の18時20分から2コマ設定されています。また、一部の科目や集中講義などは、土曜日に開講されることもあります。修業年数は2年ですが、仕事などの状況に合わせて半年単位で最大で修了時期を2年間延長することが可能です。

	月	火	水	木	金	土
昼間	勤務時間					集中講義など
夜間	1時限 18:20～20:05					
	2時限 20:15～22:00					

【年間スケジュール】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春学期授業		夏学期授業		夏期休業 (集中講義)		秋学期授業		冬学期授業		春期休業 (集中講義)	
入学式 チームビルディング	1単位科目試験	春・夏学期末試験				1単位科目試験	秋・冬学期末試験 M2学位論文提出			M2学位授与式 優秀論文発表会	

【2018年度修士課程 授業科目・担当教員一覧】

入門科目 6科目	金融数理入門	カ丸 佑紀	時系列分析入門	青木 義充
	線形モデル入門	青木 義充	金融データリテラシーⅠ	鍋井 弘士
	金融リスク計量入門	中川 秀敏	金融データリテラシーⅡ	鍋井 弘士
基礎科目 7科目	ファイナンス理論の基礎	本多 俊毅	会計・バリュエーションの基礎	野間 幹晴
	ファイナンス理論	大橋 和彦	コンピューショナル・ファイナンス	中村 信弘
	金融データ分析の基礎	横内 大介	金融数理の基礎	中川 秀敏
	コーポレートファイナンスの基礎	鈴木 健嗣		
専門科目 42科目	マネジリアル・エコノミクス	宮川 大介	M&A実践Ⅰ	佐山 展生
	マネタリー・エコノミクス	宮川 大介	アントレプレナー・ファイナンス	山本 一彦
	ポートフォリオ投資論	本多 俊毅	国際財務管理	伊藤 彰敏
	資産価格の実証分析	祝迫 得夫	コーポレート・ファイナンスに関する諸問題	鈴木 健嗣
	金融経済学(情報とインセンティブ)	大橋 和彦	CFOと企業価値	石橋 善一郎
	行動経済学	山口 勝業	業績管理会計	石橋 善一郎
	ファイナンスにおける諸問題	本多 俊毅	副演習(M&A)	佐山 展生
	派生証券理論	足立 高德	金融機関の戦略的経営	土岐 大介
	投資戦略論	中村 信弘	グローバル・リーダーシップ	福原 正大
	ファイナンシャル・リスク・マネジメント	中川 秀敏	企業戦略論	松田 千恵子
	エナジー・ファイナンス	大橋 和彦	サービス経営のファイナンス	馬場 義徳
	金融リスク計量における諸問題	北野 利幸	経営における職業倫理	山口 勝業
	金融数理	足立 高德	資産価格理論	大橋 和彦
	アルゴリズム取引の数理	足立 高德	金融市場の計量ファイナンス	中村 信弘
	金融データ分析	宮川 大介	コーポレート・ファイナンスの実証分析Ⅰ	鈴木 健嗣
	金融データ分析:演習	宮川 大介	コーポレート・ファイナンスの実証分析Ⅱ	伊藤 彰敏
	統計科学の数理(推定手法・モデル選定)	カ丸 佑紀	M&Aと事業再生の実践Ⅰ(KPMG FAS 寄附講義)	伊藤 彰敏
	ベイズ統計学(MCMC法)	青木 義充	M&Aと事業再生の実践Ⅱ(KPMG FAS 寄附講義)	伊藤 彰敏
	データサイエンス概論	横内 大介	FinTechと金融市場(フロンティア・マネジメント 寄附講義)	野間 幹晴
	経済データの時系列分析	田中 晋矢	FinTechとイノベーション(ブロードバンドタワー 寄附講義)	野間 幹晴
企業価値向上論Ⅰ	佐山 展生	FinTechと資産管理(寄附講義)	野間 幹晴	

Q 金融の実務経験がないのですが

A 金融の実務経験は前提にはしていないのでまったく問題ありません。
本プログラムでは、事業会社で働く方やITエンジニアの方なども多数入学しており、ご自身の仕事を通して得た経験や知識をベースに経営やファイナンスについて学んでいます。多様なバックグラウンドを持つ社会人学生が集まることはむしろ歓迎しています。

Q 口述試験では何が問われますか

A 口述試験では、修士論文計画書に記述された進学の動機と研究テーマについて、具体的にお伺いします。
本プログラムのカリキュラムと、ご自身の目的との適合性をきちんと見るのが目的です。口述試験の中で、語学力や専門知識を問うことはありません。
ですから、試験対策などは不要。大切なのは、日頃抱いている目的意識や問題意識です。

Q 文系出身者と理系出身者の比率を教えてください

A 2017年度入学者を例にとると、文系学部出身者が57.5%、理系学部出身者が42.5%です。この比率は例年ほぼ変わらず、概ね文系出身者が6割程度です。
文系学部とはいっても、経済学部、商学部などは数学も関係してきますが、文系学部出身者の内訳をみると、半数近くは経済・商以外の出身。外国語学部や文学部などの出身者も多数入学しています。

Q 給付金は使えますか

A 一橋大学大学院 経営管理研究科(一橋ビジネススクール)金融戦略・経営財務プログラムは、厚生労働省が実施する専門実践教育訓練給付金の指定講座です。
受給資格がある方で、事前に必要な手続きをすれば、2020年4月入学の場合最大で938,620円が給付されます。利用する学生も多いです。受給資格や手続きの詳細については、最寄りのハローワークに問い合わせてください。

Q 書類審査では何が問われますか

A 出願時には複数の書類の提出を求めますが、書類審査で重視するのは修士論文計画書です。
そこでまず確認するのがモチベーション。2年間、仕事と学業を両立できるだけの意欲が感じられるかどうかは大きなポイントです。もちろん研究したい内容についても審査しますので、この2つをわかりやすくまとめることを意識してください。

Q 高校時代は数学が苦手でしたが大丈夫でしょうか

A 実際、数学が苦手な大学でもほとんど触れてこなかった方も多数入学しています。本プログラムでは、そのような方々のために、数理系の基礎を教える「入門科目」を設けているので、入学後に学べば大丈夫です。
入門科目では、数学そのものというより、「論理的に考えるためのツール」として数理を学ぶので、数学に苦手意識のある人でも無理なく習得できます。

Q 入学から修了までどのくらいの授業料が必要ですか

A 2020年4月入学の学費は、入学金が282,000円、授業料が年額535,800円です。2年間で修了する場合の合計金額は、1,353,600円となります。
2021年度入学より学費が改定されますが、国立大学であるため、私立大学のMBAプログラム等と比較すると相対的に学費は安くなっています。

Q 入学後に仕事と大学院の時間のやり繰りができるか心配です

A 職場や家族に大学院に通学することをきちんと話し、理解を得ることが第一です。なお、先輩たちからは、「最初の半年はしんどいが、徐々にペースがつかめるようになりメリハリがつけられるようになります。本当に必要に迫られると、仕事も勉強ももっと効率化できるようになるので、結果として入学時に考えていたより勉強時間や家族で過ごす時間を作ることができました」「平日は早起きを心がけ時間配分を意識すると、意外と勉強に充てられる時間はあるものです。土日は午前・午後と4コマに分け、どこか1つは必ず家族や友人と過ごす時間を取り、勉強は学校の自習室や図書室で決めてバランスを取るようになっています」「仕事で緊急事態が起きた時は仕事に集中する。2~3週間であれば大学院はあとからキャッチアップできます」などといった声が寄せられています。ぜひ参考にしてください。

学内施設紹介



図書室
学術総合センター5階にある図書室は、1万冊を超える図書と270種の雑誌を備えており、図書の貸出や閲覧、自習に利用できます。FSの修了生も当図書室で図書等の閲覧が可能です。



学生ラウンジ
FSは学生同士が歓談できるラウンジや、軽い運動が可能な施設を備えています。



自習室
鍵のかかるロッカーも併設しています。



一橋講堂
学生同士の交流を深める「チームビルディング」
毎年、入学年度の4月に新入生向けに実施しています。ゲームやエクササイズを通して、新入生がお互いの顔と名前を覚え、クラスメートとして打ち解け合うことができます。



データ室
閲覧可能な主なデータベース
・QUICK Astra Manager (日本上場企業の財務データ+株価データ)
・Bloomberg
・SPEEDA
・トムソンロイター Datastream
・S&P Capital IQ
・イボットソン・モーニングスター提供 ファンド関連データ
・レコフ社 MARR (M&A関連DB)
・FDS提供 日次・月次日本株式リターン・データ&財務データ



学術総合センターの外観
如水会館
一橋大学の同窓クラブ「如水会」の同窓会館として、1919年に建てられた洋風の会館。現在の会館は1982年に改築したもの。同窓会員の親睦を深める目的でつくられた如水会館は、現在は結婚式や宴会など、会員以外の方にも広く利用されています。



あなたは2年間で最大の成果を上げる。そして選ばれるMBA人材となる。

イベント案内

- 2019年 11月21日(木) オープンキャンパス
一橋大学千代田キャンパスにて
- 2020年 3月24日(火) 優秀修士論文発表会
一橋講堂・中会議場にて

※詳細はホームページなどでご確認ください。

2020年度入学試験スケジュール

秋期募集

- 出願期間 : 2019年 9月30日(月)~10月 4日(金)
- 第1次試験合格者発表 : 2019年11月 1日(金)
- 第2次試験(口述) : 2019年11月10日(日)
- 合格発表 : 2019年11月18日(月)

冬期募集

- 出願期間 : 2020年 1月10日(金)~ 1月16日(木)
- 第1次試験合格者発表 : 2020年 1月27日(月)
- 第2次試験(口述) : 2020年 2月 2日(日)
- 合格発表 : 2020年 2月13日(木)

- 募集人員 : 41名(秋期募集・冬期募集の合計)
- 出願資格 : 入学時点において企業・官公庁等で原則2年以上の実務経験を有していること。

入学検定料: 30,000円

学費 : 入学金/282,000円 授業料年額/535,800円

※日程や金額など変更になる場合があります。最新情報はホームページなどでご確認ください。

本プログラムに関する詳しい情報については、ホームページをご覧ください。

<http://www.fs.hub.hit-u.ac.jp/>

交通アクセス



- 東京メトロ半蔵門線、
- 都営地下鉄三田線・● 新宿線
- 神保町駅 A8出口・A9出口より 徒歩 4分
- 東京メトロ東西線
- 竹橋駅 1b出口より 徒歩 4分



一橋大学大学院 経営管理研究科
金融戦略・経営財務プログラム(MBA)
〒101-8439
東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内

お問い合わせ

電話:03-4212-3000

E-mail : chiyoda-info@hub.hit-u.ac.jp